の中で循環させていく

す。

経済を回す」という視

点を重視し、

誰もが安心

産出額は3221億円に

その結果、16年の農業

であり、青森県では、協

り添い、多様な働き方・

多様な生き方を応援する

締結は大変意義深いもの

定に基づき就職セミナー

職員を派遣し、学生や

達し、13年連続で東北ト

者は12年度から16年度ま ップを堅持し、新規就農

保護者の皆様に青森県内

の企業情報などを直接お

青森県で暮らし、夢を実

専修大学の皆さんが、

現されることを期待して

また、青森県東京事務

います。

での5年間で1330 に達しています。また、

様な雇用を生み出し、そ

内外からの誘客などに積

県内定着につなげていく

挑戦を応援します

こで生まれた収入を地域

極的に取り組んでいま 上で、専修大学との協定

関する連携協定を締結し

県の豊かな農林水産資源

を活かした「攻めの農林

ています。とりわけ、本

した人は、過去最多の1

利用して青森県内で創業

16年度に創業支援拠点を

所内の「あおもりUター

ける青森県づくりを進め

は、2016年12月に、

青森県と専修大学と

して、輝いて暮らしてい

UIJターン就職促進に

っています。この課題の 内定着が大きな課題とな

青森県では、若者の県

な企業誘致や産業振興、 水産業」の推進、戦略的

べ宿泊者数は約24万人で

東北トップとなるなど、

さらに、17年の外国人延 10人となっています。

力ある仕事をつくり、多 克服に向けて、地域に魅

た「立体観光」による国

な交通手段を組み合わせ 陸路・海路・空路の多様

表れています。

こうした成果を若者の

の

取り組みの成果が着実に

青森県は夢をかなえるため

業を推進する。

(8)

# 県内への就職を促進



機構と就職支援のための 県・ふるさと鳥取県定住 連携協定を結んだ。 学生の鳥取県内への就 本学は3月20日、 鳥取

流会などを予定してい 内企業の若手社員との交 う。2018年度は学内 相談会の開催▽保護者へ 支援事業を委託されてお る。同機構は県から就職 での鳥取県出前講義、県 の情報提供 などを行

や生活情報の周知▽就職 職の促進を目的に▽学生 への鳥取県内の企業情報 と期待を寄せた。森谷理 なれば」と語った。 一者が回帰するきっかけに 事長も「協定が鳥取に若 ご父母・保護者にも細や 戻るための環境を提供す 互に協力していきたい」 るため、学生はもとより 出身の学生がふるさとに を鳥取県に迎えるため相 たい」と述べ、平井知事は かに情報を発信していき 「専修大学で学んだ人材 この協定により、本学 佐々木学長は「鳥取県

取県知事、森谷邦彦同機 長が協定書を交わした。 構理事長と佐々木重人学 協定式は神田キャンパ

## 織間協定を

会科学研がハノイ訪問

VIET NAM QUANG

| 自治体となった。 の就職支援協定締結は23 ァム・ホン・タイ所長、 院東北アジア研究所(フ となるベトナム社会科学 ノイ市)との国際交流組

りに必要な視点は-

|き、約8人が参加した。

|日、東京・渋谷区で開

問題はないか。まちづく | シンポジウムを2月14

震災後の住居の確保に

一下地震に備えようと公開

社会科学研 渋谷でシンポ

地震に備える

と、災害復興まちづ

ン就職支援センター」

ます。皆さんの挑戦に寄 を受け入れる環境があり 夢をかなえるための挑戦 を紹介する「UIJター る際の交通費の一部を助 営も行っています。就職 やインターンシップ情報 で、ぜひ、ご活用くださ ン就職支援サイト」の運 成する制度もありますの 活動などで青森県を訪れ 青森県には、皆さんの WEB上で企業情報 【あおもりUIJターン就職支援サイト】http://aomori-job.jp/ 【あおもりUターン就職支援センター】https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/soumu/a-tokyo/aomoriuta-nnsyuushokusiennsennta-00.html

を実施、イオンモールロ

ビエン、三進ベトナ

あった。 同日午後から企業訪問

ナムを訪問し、協定満了 晃臣所長)は2月にベト |を訪問。企業訪問では、 容を目の当たりにした。 |ベトナムの経済社会の変 更新調停式は5日、同研 東北アジア研究所との

ども進めているが、今後 活発に行うことを確認し も人事交流や研究交流を 2年の協定締結以来、両 究所で行われた。201 定例研究会の開催を重ね しおり、研究者の交流な は国際シンポジウム、

ろうとしている様子を知 97年に社研がベトナム ることができた。 首都直下 三進ベトナムは、

り」の一環を担うスーパ ありながら、「まちづく

-として地域と一つとな

ンビエンは、郊外立地で 店となるイオンモールロ

社会科学研究所(宮嵜 | 織間協定の更新調印を行 い、その後日系企業3社

社会科学研究所は首都直

学、都市防(政策科 災) らが20 情報学部准教 所の佐藤慶 ムは、同研究 表参道地域を 谷区の原宿・ ネットワーク 15年から渋 シンポジウ

います。

仮設住宅の試算を報告した佐藤准教授 中心に進めて

じる言動が周知されているので、あ

はありませんか。

す。就職課窓口で登録手 ので、諦めずに就職活動 続きをすることでS-n も就職課を利用できま etも継続利用できます を続けましょう。 〈4年次生へ〉 卒業後

例年に比べ、個別の会社 が本番を迎えました。 〈3年次生〈〉就職活

|とを意識してください。 説明会を開催します。 ます。チャンスを逃さな の話を聞いてみてくださ パス3号館7階に約12 シート提出期限が早くな いためにも先手を打つこ っている傾向がうかがえ O社が集まり、 合同企業 説明会開催やエントリー (火) には、生田キャン 3月26日 (月)、27日 く考えていたりします。 修大生を採用したいと強 が長く働いていたり、専 場合があるからです。ま ェアを持っていたりする た、学内の説明会に来校 い。なぜなら業界内では げてください。 する企業は、OB・OG 有名であったり、高いシ き、内定のチャンスを広 一社でも多く説明を聞

らドイモイ政策後のベト を依頼している旅行業 |の仲介や案内、通訳など 同時に、その過程のどの ナム社会の変化を聞くと 代表の新妻東一氏か あった。 人たちで平均年齢30歳。 ム人労働者は近隣に 黙々と真剣に働くべ トナー自治体などが報告や提言

査を行った。

ベトナムにおいて3号

3社を訪ね、聞き取り調

ム、四国電線ベトナムの

さらに「仮設まちづく

トナムを訪問。 振り返ってもらった。 ようなタイミングで社会 訪問してきたのかなどを 科学研究所がベトナムを 団地の中の一企業で11年 に設立された四国電線ベ 最後に、ハナム省工業 ればと考えた。(樋 構築していくことが まざまなレベルでの

工場で

ベトナム×日本間のさ

がりを実感した。研究所 美人間科学部教授) 力的関係を今後も真摯に

住む を行った。

|としてもベトナムとの協 | 発生した場合でも、都内 これからのベトナムの勢 | 下地震が発生した場合に いを象徴しているようで | 自治体が用意できる仮設 でき | 世帯の住まいが不足し、

|地で復興支援に携わった|こととして対応を考える| 践的な活動につなげてい 東日本大震災などの被災 | の方と共有して、自分の | ミュニティデザインの実 きた防災研究のグループ | るのか、空いている賃貸 | テーマで関係者のネット 支援機構との共同企画。 | か。こうした情報を地域 研究者や企業、 | くり | 住宅がどのくらいあるの | ワークを作り計画や制度 |必要がある」と訴えた。|きたい」と話している。 被害が少ない夏の昼間に 仮住まい広域化の可能性 | がシンポジウムを締めく 23区のうち12区で約13万 して綿密に試算。火事の て、地震被害などを考慮 設住宅をどこに建てられ があることを指摘。「仮 住宅や賃貸住宅につい 佐藤准教授は、首都直 の研究を行い、建築やコ くった。佐藤准教授は 市の復興や住宅再建には 学部教授(災害社会学) | 学会長の大矢根淳人間科 見も出た。日本災害復興 | 必要ではないかなどの意 市街地を整備することが 時間がかかることから、 | 宅も紹介された。 取り組み、海外の仮設住 り」や仮設住宅の新しい 「未来の仮設住宅という リレートークでは、都

思 やりと寛容

ることなく、大多数の人が不快と感 い、不快に感じやすいと思ったこと ない対象は、時代にあまり左右され 変わらない対象があります。変わら スマホのような文字に頼る場合、相 に感じた経験が少なからずあると思 ても、信頼関係がない人からでは、 時代的風潮によって移ろう対象と、 何を不快に感じるのか、価値観やね。さらに、言葉だけでなく表情や 他人の言動によって不快 互の受け止め方にズレが生じてしま 身ぶりを交えた対面の会話に比べ、 不快と感じてしまうことがあります また、同じ状況で同じ言動であっ

らかじめ回避することが可能です。 動に変化したことに気づかない場 その答えは一人一人さまざまでしょ いた言動が、他人を不快にさせる言 ように振る舞えばよいのでしょう。 合、意図せぬところで軋轢が生じ、 ハラスメントを招いてしまうことに 方、かつて普通に受け止められて トのない学修環境を作るには、どの るります。 う。 私なら、当たり前のようですが、 このような現代社会、ハラスメン

であっても、不快と 傾ける寛容な心持ちではないか、と 止め方が異なるだ りへの思いやり。同時に、自分と異 「今日、世代間で受<br />
の「恕(ジョ)」にあるように、<br />
周 価値観が多様化し いことは他人にもしないという論語 なる考え方を持つ他者の言動に耳を 考えています。 まずは、自分が他人から受けたくな

(キャンパス・ハラスメント 対策室員・小林の昭裕)



感じる言動の受け止 でなく、同じ年代 方に違いがありま